

教科		国語	履修学年	1年	指導時間	158時間	担当者	田口 瑞穂、渡邊綾子	区分	必修																									
教科の目標			・社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。 ・筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを確かなものにすることができるようにする。 ・言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。																																
観点			知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度																											
内容のまとめりことの評価規準	「A話すこと・聞くこと」	ア 紹介や報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて質問したり意見などを述べたりする活動	・指示する語句と接続する語句の役割について理解を深めている。 ・音声の働きや仕組みについて、理解を深めている。 ・事象や行為、心情を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。		・目的や場面に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討している。 ・必要に応じて記録したり質問したりしながら話の内容を捉え、共通点や相違点などを踏まえて、自分の考えをまとめている。 ・相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫している。			・積極的に集めた材料を整理し、学習の見通しをもって報告しようとしている。 ・進んで情報の整理の仕方を使って、学習課題に沿って意見を述べようとしている。																											
		イ 互いの考えを伝えるなどして、少人数で話し合う活動	・音声の働きや仕組みについて、理解を深めている。 ・語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・比較や分類、関係付けなどの情報の整理の仕方、引用の仕方や出典の示し方について理解を深め、それらを使っている。		・相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫している。 ・自分の考えや根拠が明確になるように、話の中心的部分と付加的な部分、事実と意見との関係などに注意して、話の構成を考えている。 ・必要に応じて記録したり質問したりしながら話の内容を捉え、共通点や相違点などを踏まえて、自分の考えをまとめている。			・粘り強く表現を工夫し、今までの学習を生かして対話しようとしている。 ・積極的に指示する語句と接続する語句の役割について理解を深め、学習課題に沿って話し合おうとしている。																											
	「B書くこと」	ア 本や資料から文章や図表などを引用して説明したり記録したりするなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動	・比較や分類、関係付けなどの情報の整理の仕方、引用の仕方や出典の示し方について理解を深め、それらを使っている。 ・読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解している。 ・語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。		・「書くこと」において、根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。 ・根拠の明確さなどについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだしている。 ・読み手の立場に立って、表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えている。 ・目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしている。			・粘り強く自分の考えが伝わる文章になるように工夫し、学習の見通しをもって説明する文章を書こうとしている。 ・進んで情報と情報との関係について理解し、学習の見通しをもって記録する文章を書こうとしている。																											
		イ 行事の案内や報告の文章を書くなど、伝えるべきことを整理して書く活動	・指示する語句と接続する語句の役割について理解を深めている。 ・比喻、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使っている。 ・字形を整え、文字の大きさ、配列などについて理解して、楷書で書いている。		・書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えている。 ・読み手の立場に立って、表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えている。 ・「書くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしている。			・積極的に表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめ、学習課題に沿って行事の案内の文章を書こうとしている。 ・粘り強く語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意し、学習の見通しをもって報告する文章を書こうとしている。																											
		ウ 詩を創作したり随筆を書いたりするなど、感じたことや考えたことを書く活動	・事象や行為、心情を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・比喻、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使っている。 ・語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。		・日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしている。 ・読み手の立場に立って、表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えている。			・積極的に比喻、復、倒置、体言止めなどの表現の技法を使い、今までの学習を生かして随筆を書こうとしている。																											
		エ 説明や記録などの文章を読み、理解したことや考えたことを報告したり文章にまとめたりする活動	・指示する語句と接続する語句の役割について理解を深めている。 ・原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。 ・語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解している。		・文章の中心的部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握している。 ・文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えている。 ・文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにしてしている。			・粘り強く文章の要旨を把握し、学習の見通しをもって理解したことを報告しようとしている。 ・積極的に語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意し、学習課題に沿って考えたことをレポートにまとめようとしている。																											
	「C読むこと」	イ 小説や随筆などの読み、考えたことなどを記録したり伝え合ったりする活動	・事象や行為、心情を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読んでいる。		・場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えている。 ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにしてしている。 ・目的に応じて必要な情報に着目して要約したり、場面と場面、場面と描写などを結び付けたりして、内容を解釈している。 ・文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えている。			・進んで登場人物の相互関係などを捉え、学習課題に沿って考えたことをスピーチしようとしている。 ・積極的に古文や漢文を音読し、学習の見通しをもって考えたことを記録しようとしている。																											
		ウ 学校図書館などを利用し、多様な情報を得て、考えたことなどを報告したり資料にまとめたりする活動	・比較や分類、関係付けなどの情報の整理の仕方、引用の仕方や出典の示し方について理解を深め、それらを使っている。 ・読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解している。		・「読むこと」において、目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈している。 ・文章の中心的部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握している。 ・場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えている。 ・文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えている。 ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにしてしている。			・積極的に必要な情報に着目し、学習課題に沿って考えたことを資料にまとめようとしている。 ・進んで引用の仕方や出典の示し方を使い、学習の見通しをもって考えたことを報告しようとしている。																											
主な評価資料			授業ノート・学習プリント ・単元テスト・定期考査など			授業ノート・学習プリント・単元テスト 定期考査など			授業内の様子・ワークシートなど																										
評価の割合			30%			40%			30%																										
観点別の評価基準			<table><tr><th colspan="2">観点別学習状況の評価</th><th colspan="2">学習の実現状況</th></tr><tr><td>A</td><td>十分満足できると判断されるもの</td><td colspan="2">70%以上</td></tr><tr><td>B</td><td>おおむね満足できると判断されるもの</td><td colspan="2">50%以上 70%未満</td></tr><tr><td>C</td><td>努力を要すると判断されるもの</td><td colspan="2">50%未満</td></tr></table>									観点別学習状況の評価		学習の実現状況		A	十分満足できると判断されるもの	70%以上		B	おおむね満足できると判断されるもの	50%以上 70%未満		C	努力を要すると判断されるもの	50%未満									
観点別学習状況の評価		学習の実現状況																																	
A	十分満足できると判断されるもの	70%以上																																	
B	おおむね満足できると判断されるもの	50%以上 70%未満																																	
C	努力を要すると判断されるもの	50%未満																																	
5段階 評定基準			<table><tr><th colspan="2">評 定</th><th colspan="2">各評定の範囲</th></tr><tr><td>5</td><td>十分満足できるもののうち、特に程度が高いもの</td><td colspan="2">80%以上</td></tr><tr><td>4</td><td>十分満足できると判断されるもの</td><td colspan="2">70%以上 80%未満</td></tr><tr><td>3</td><td>概ね満足できると判断されるもの</td><td colspan="2">50%以上 70%未満</td></tr><tr><td>2</td><td>努力を要すると判断されるもの</td><td colspan="2">20%以上 50%未満</td></tr><tr><td>1</td><td>一層努力を要すると判断されるもの</td><td colspan="2">20%未満</td></tr></table>									評 定		各評定の範囲		5	十分満足できるもののうち、特に程度が高いもの	80%以上		4	十分満足できると判断されるもの	70%以上 80%未満		3	概ね満足できると判断されるもの	50%以上 70%未満		2	努力を要すると判断されるもの	20%以上 50%未満		1	一層努力を要すると判断されるもの	20%未満	
評 定		各評定の範囲																																	
5	十分満足できるもののうち、特に程度が高いもの	80%以上																																	
4	十分満足できると判断されるもの	70%以上 80%未満																																	
3	概ね満足できると判断されるもの	50%以上 70%未満																																	
2	努力を要すると判断されるもの	20%以上 50%未満																																	
1	一層努力を要すると判断されるもの	20%未満																																	

教科	社会	履修学年	1年	指導時間	123時間	担当者	福本 あゆみ	区分	必修
----	----	------	----	------	-------	-----	--------	----	----

教科の目標	社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を高める育成することを目指す。
-------	---

観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
内容のまとまりごとの評価規準	世界と日本の姿	・日本の国土の位置、世界各地との時差、領域の範囲や変化とその特色などを基に、日本の地域構成を大観し理解している。 ・日本の国土の位置、世界各地との時差、領域の範囲や変化とその特色などを基に、日本の地域構成を大観し理解している。	・世界の地域構成の特色を、大陸と海洋の分布や主な国の位置、緯度や経度などに着目して多面的・多角的に考察し、表現している。 ・日本の地域構成の特色を、周辺の海洋の広がりや国土を構成する島々の位置などに着目して多面的・多角的に考察し、表現している。	・世界の地域構成について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。 ・日本の地域構成について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。
	世界のさまざまな地域	・人々の生活は、その生活が営まれる場所の自然及び社会的条件から影響を受けたり、その場所の自然及び社会的条件に影響を与えたりすることを理解している。 ・世界各地における人々の生活やその変容を基に、世界の人々の生活や環境の多様性を理解している。その際、世界の主な宗教の分布についても理解している。 ・世界各地で顕在化している地球的課題は、それが見られる地域の地域的特色の影響を受けて、現れ方が異なることを理解している。 ・アジア州、ヨーロッパ州、アフリカ州、北アメリカ州、南アメリカ州、オセアニア州の各州に暮らす人々の生活を基に、各州の地域的特色を大観している。	・世界各地における人々の生活の特色やその変容の理由を、その生活が営まれる場所の自然及び社会的条件などに着目して多面的・多角的に考察し表現している。 ・アジア州、ヨーロッパ州、アフリカ州、北アメリカ州、南アメリカ州、オセアニア州の各州において、地域で見られる地球的課題の要因や影響を、州という地域の広がりや地域内の結び付きなどに着目して、それらの地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現している。	・世界各地の人々の生活と環境について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。 ・世界の諸地域について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。
	日本のさまざまな地域	・観察や野外調査、文献調査を行う際の視点や方法、地理的なまとめ方の基礎を理解している。 ・地形図や主題図の読図、目的や用途に適した地図の作成などの地理的技能を身に付けている。 ・日本の地形や気候の特色、海洋に囲まれた日本の国土の特色、自然災害と防災への取り組みなどを基に、日本の①自然環境に関する特色を理解している。 ・少子高齢化の課題、国内の人口分布や過疎・過密問題などを基に、日本の②人口に関する特色を理解している。 ・日本の資源・エネルギー利用の現状、国内の産業の動向、環境やエネルギーに関する課題などを基に、日本の③資源・エネルギーと産業に関する特色を理解している。 ・国内や日本と世界との交通・通信網の整備状況、これを利用した陸上、海上輸送などの物流や人の往来などを基に、国内各地の結び付きや日本と世界との結び付きの特色を理解している。 ・①自然環境、②人口、③資源・エネルギーと産業、④交通・通信に基づく地域区分を踏まえ、日本の国土の特色を大観し理解している。 ・日本や国内地域に関する各種の主題図や資料を基に、地域区分をする技能を身に付けている。	・地域調査において、対象となる場所の特徴などに着目して、適切な主題や調査、まとめとなるように、調査の手法やその結果を多面的・多角的に考察し、表現してる。 ・①自然環境、②人口、③資源・エネルギーと産業、④交通・通信について、それぞれの地域区分を、地域の共通点や差異、分布などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現している。 ・①自然環境、②人口、③資源・エネルギーと産業、④交通・通信に基づく地域区分などに着目して、それらを関連付けて多面的・多角的に考察し、表現している。	・地域調査の手法について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。 ・日本の地域的特色と地域区分について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

主な評価資料	定期考査、レポート・発表活動	定期考査、授業プリント、レポート・発表活動、	定期考査、授業プリントの記述、課題提出、レポート・発表活動																		
評価の割合	30%	40%	30%																		
観点別の評価基準	<table><tr><th colspan="2">観点別学習状況の評価</th><th>学習の実現状況</th></tr><tr><td>A</td><td>十分満足できると判断されるもの</td><td>70%以上</td></tr><tr><td>B</td><td>おおむね満足できると判断されるもの</td><td>50%以上 70%未満</td></tr><tr><td>C</td><td>努力を要すると判断されるもの</td><td>50%未満</td></tr></table>			観点別学習状況の評価		学習の実現状況	A	十分満足できると判断されるもの	70%以上	B	おおむね満足できると判断されるもの	50%以上 70%未満	C	努力を要すると判断されるもの	50%未満						
観点別学習状況の評価		学習の実現状況																			
A	十分満足できると判断されるもの	70%以上																			
B	おおむね満足できると判断されるもの	50%以上 70%未満																			
C	努力を要すると判断されるもの	50%未満																			
5段階 評定基準	<table><tr><th colspan="2">評 定</th><th>各評定の範囲</th></tr><tr><td>5</td><td>十分満足できるもののうち、特に程度が高いもの</td><td>80%以上</td></tr><tr><td>4</td><td>十分満足できると判断されるもの</td><td>70%以上 80%未満</td></tr><tr><td>3</td><td>概ね満足できると判断されるもの</td><td>50%以上 70%未満</td></tr><tr><td>2</td><td>努力を要すると判断されるもの</td><td>20%以上 50%未満</td></tr><tr><td>1</td><td>一層努力を要すると判断されるもの</td><td>20%未満</td></tr></table>			評 定		各評定の範囲	5	十分満足できるもののうち、特に程度が高いもの	80%以上	4	十分満足できると判断されるもの	70%以上 80%未満	3	概ね満足できると判断されるもの	50%以上 70%未満	2	努力を要すると判断されるもの	20%以上 50%未満	1	一層努力を要すると判断されるもの	20%未満
評 定		各評定の範囲																			
5	十分満足できるもののうち、特に程度が高いもの	80%以上																			
4	十分満足できると判断されるもの	70%以上 80%未満																			
3	概ね満足できると判断されるもの	50%以上 70%未満																			
2	努力を要すると判断されるもの	20%以上 50%未満																			
1	一層努力を要すると判断されるもの	20%未満																			

教科	数学	履修学年	1年	指導時間	158時間	担当者	粕谷 和宏、入江 康隆 白樫 知樹、篠原 鉄志	区分	必修
----	----	------	----	------	-------	-----	----------------------------	----	----

教科の目標	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成することを目指す。
-------	---

観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
内容のまとまりごとの評価規準	A数と式	正負の数および文字を用いた式や方程式における基本的な概念、原理・法則などを理解し、知識を身につけ、的確に処理することができる。	事象を数学的に表現して考察したり、式を多面的に見たりして事象の考察に活用することができる。	正負の数および文字を用いた式や方程式のよさに気付いて粘り強く考え、正負の数および文字を用いた式や方程式について学んだことを生活や学習に生かそうとしたり、正負の数および文字を用いた式や方程式を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしたりしている。
	B図形	平面図形と空間図形についての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技術を身につけるようにする。	数学的な推論の過程に着目し、図形の性質や関係を論理的に考察し表現する力を身に付けて具体的な場面で活用することができる。	平面図形や空間図形の性質や関係を捉えることのよさに気付いて粘り強く考え、平面図形や空間図形について学んだことを生活や学習に生かそうとしたり、作図や図形の移動、空間図形の性質や関係を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしたりしている。
	C関数	関数関係の意味、比例、反比例の意味、比例、反比例の関係を表す表、式、グラフの特徴、問題解決への利用の仕方を理解しているとともに、比例、反比例の関係を、表、式、グラフなどを用いて的確に表現したり、数学的に処理したりすることができる。	比例、反比例についての基礎的・基本的な知識及び技能を活用しながら、事象を見通しをもって論理的に考察し表現したり、その過程を振り返って考えを深めたりすることができる。	比例、反比例のよさに気付いて粘り強く考え、比例、反比例について学んだことを生活や学習に生かそうとしたり、比例、反比例を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしたりしている。
	Dデータの分布	ヒストグラムや相対度数などの必要性和意味を理解するとともに、コンピュータなどの情報手段を用いるなどしてデータを表やグラフに整理することができる。	目的に応じてデータを収集して分析し、そのデータの分布の傾向を読み取り、批判的に考察し判断することができる。	ヒストグラムや相対度数などのよさに気付いて粘り強く考え、データの分布について学んだことを生活や学習に生かそうとしたり、ヒストグラムや相対度数などを活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしたり、多面的に捉え考えようとしている。

主な評価資料	小テスト、定期考査 課題・レポート	小テスト、定期考査 課題・レポート	小テスト、定期考査 課題・レポート
評価の割合	30%	40%	30%

観点別の評価基準	観点別学習状況の評価		学習の実現状況
	A	十分満足できると判断されるもの	70%以上
	B	おおむね満足できると判断されるもの	50%以上 70%未満
	C	努力を要すると判断されるもの	50%未満
5段階 評定基準	評 定		各評定の範囲
	5	十分満足できるもののうち、特に程度が高いもの	80%以上
	4	十分満足できると判断されるもの	70%以上 80%未満
	3	概ね満足できると判断されるもの	50%以上 70%未満
	2	努力を要すると判断されるもの	20%以上 50%未満
	1	一層努力を要すると判断されるもの	20%未満

教科	理科	履修学年	1年	指導時間	140時間	担当者	阿江 伸也、渡部 啓太 茂木 篤	区分	必修
----	----	------	----	------	-------	-----	---------------------	----	----

教科の目標	自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する。
-------	---

観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
内容のまとまりごとの評価規準	(1)身近な物理現象	身近な物理現象を日常生活や社会と関連付けながら、光と音、力の働きを理解しているとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けている。	身近な物理現象について、問題を見出し見通しをもって観察、実験などを行い、光の反射や屈折、凸レンズの働き、音の性質、力の働きの規則性や関係性を見出して表現している。	身近な物理現象に関する事物・現象に進んでかかわり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
	(2)身の回りの物質	身の回りの物質の性質や変化に着目しながら、物質のすがた、水溶液、状態変化を理解しているとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けている。	身の回りの物質について、問題を見出し見通しをもって観察、実験などを行い、物質の性質や状態変化における規則性を見出して表現している。	身の回りの物質に関わる事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
	(3)いろいろな生物とその共通点	いろいろな生物の共通点と相違点に着目しながら、生物の観察と分類の仕方、生物の体の共通点と相違点を理解しているとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けている。	身近な生物についての観察、実験などを通して、いろいろな生物の共通点や相違点を見いだすとともに、生物を分類するための観点や基準を見出して表現している。	いろいろな生物とその共通点に関する事物・現象に進んで関わり 見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
	(4)大地の成り立ちと変化	大地の成り立ちと変化を地表に見られる様々な事物・現象と関連付けながら、身近な地形や地層、岩石の観察、地層の重なりと過去の様子、火山と地震、自然の恵みと火山災害・地震災害を理解しているとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けている。	大地の成り立ちと変化について、問題を見出し見通しをもって観察、実験などを行い、地層の重なり方や広がり方の規則性、地下のマグマの性質と火山の形との関係性などを見出して表現している。	大地の成り立ちと変化に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

主な評価資料	ワークシート、小テスト 定期考査、パフォーマンステスト 実験レポート	ワークシート、小テスト 定期考査、実験レポート	提出物、小テスト、定期テスト 学習に取り組む様子																		
評価の割合	30%	40%	30%																		
観点別の 評価基準	<table><tr><th colspan="2">観点別学習状況の評価</th><th>学習の実現状況</th></tr><tr><td>A</td><td>十分満足できると判断されるもの</td><td>70%以上</td></tr><tr><td>B</td><td>おおむね満足できると判断されるもの</td><td>50%以上 70%未満</td></tr><tr><td>C</td><td>努力を要すると判断されるもの</td><td>50%未満</td></tr></table>			観点別学習状況の評価		学習の実現状況	A	十分満足できると判断されるもの	70%以上	B	おおむね満足できると判断されるもの	50%以上 70%未満	C	努力を要すると判断されるもの	50%未満						
観点別学習状況の評価		学習の実現状況																			
A	十分満足できると判断されるもの	70%以上																			
B	おおむね満足できると判断されるもの	50%以上 70%未満																			
C	努力を要すると判断されるもの	50%未満																			
5段階 評定基準	<table><tr><th colspan="2">評 定</th><th>各評定の範囲</th></tr><tr><td>5</td><td>十分満足できるもののうち、特に程度が高いもの</td><td>80%以上</td></tr><tr><td>4</td><td>十分満足できると判断されるもの</td><td>70%以上 80%未満</td></tr><tr><td>3</td><td>概ね満足できると判断されるもの</td><td>50%以上 70%未満</td></tr><tr><td>2</td><td>努力を要すると判断されるもの</td><td>20%以上 50%未満</td></tr><tr><td>1</td><td>一層努力を要すると判断されるもの</td><td>20%未満</td></tr></table>			評 定		各評定の範囲	5	十分満足できるもののうち、特に程度が高いもの	80%以上	4	十分満足できると判断されるもの	70%以上 80%未満	3	概ね満足できると判断されるもの	50%以上 70%未満	2	努力を要すると判断されるもの	20%以上 50%未満	1	一層努力を要すると判断されるもの	20%未満
評 定		各評定の範囲																			
5	十分満足できるもののうち、特に程度が高いもの	80%以上																			
4	十分満足できると判断されるもの	70%以上 80%未満																			
3	概ね満足できると判断されるもの	50%以上 70%未満																			
2	努力を要すると判断されるもの	20%以上 50%未満																			
1	一層努力を要すると判断されるもの	20%未満																			

教科	音楽	履修学年	1年	指導時間	45時間	担当者	竹田 美佳子	区分	必修
----	----	------	----	------	------	-----	--------	----	----

教科の目標	・音楽活動の楽しさを探究することを通して、音や音楽への興味・関心を高め、音楽によって生活を明るく豊かなものにし、生涯にわたって音楽に親しんでいく態度を育てる。 ・多様な音楽表現の豊かさや美しさを感じ取り、表現の技能を伸ばし、創意工夫して表現する能力を高める。 ・多様な音楽に対する理解を深め、幅広く主体的に鑑賞する能力を高める。
-------	--

観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
内容のまとめりとことの評価規準	歌唱	・歌詞の意味、背景にある情景や心情、歌詞の構成に気をつけ、自己のイメージや感情を膨らませて歌唱表現をする技能を身につけている。 ・曲の持っているよさや特徴に気をつけ、自己のイメージを広げて歌唱表現する技能を身につけている。	・歌詞の意味、背景にある情景や心情、歌詞の構成を感じ取り、自己のイメージや感情を膨らませて歌唱表現を工夫している。 ・曲の持っているよさや特徴を感じ取り、自己のイメージを広げて歌唱表現している。	・歌詞の意味、背景にある情景や心情、歌詞の構成に関心をもち、自己のイメージを膨らませて歌唱表現することに意欲的である。 ・曲の持っているよさや特徴に関心をもち、自己のイメージを広げて歌唱表現することに意欲的である。
	器楽	・楽器の基本的な操作方法や初歩的な演奏方法に気をつけて器楽表現をする技能を身につけている。 ・楽器の音の特性を生かし、美しく豊かな表情の音に気をつけて器楽表現をする技能を身につけている。	・楽器の基本的な操作方法に気づき、初歩的な演奏方法を感じ取って器楽表現を工夫している。 ・楽器の特性を知覚し、美しく豊かな表情の音を感じ取って器楽表現を工夫している。	・楽器の基本的な操作方法や初歩的な演奏方法に関心をもち、器楽表現することに意欲的である。 ・楽器の音の特性に関心をもち、美しく豊かな表情の音で器楽表現をすることに意欲的である。
	創作	・音楽の諸要素の働きをイメージと関わらせて創作表現をする技能を身に付けている。 ・音階や旋律の動きやフレーズなどが生み出す表現効果に気をつけて創作表現をする技能を身に付けている。	・音楽の諸要素の働きをイメージと関わらせて感じ取り、創作表現を工夫している。 ・音階や旋律の動きやフレーズなどが生み出す表現効果を感じ取っている。	・音楽の諸要素の働きをイメージと関わらせて創作表現をすることに意欲的である。 ・音階や旋律の動きやフレーズなどが生み出す表現効果に関心を持っている。
	鑑賞	・音楽を形作っている要素を知覚し、それらの働きによって生み出される曲想の変化を感じ取る技能を身に付けている。 ・楽曲構成の豊かさや表現の多様さと楽曲全体を味わう技能を身に付けている。	・音楽を形作っている要素を知覚し、それらの働きによって生み出される曲想の変化を感じ取っている。 ・楽曲構成の豊かさや表現の多様さと楽曲全体の味わいを感じ取っている。	・音楽を形作っている要素を知覚し、それらの働きによって生み出される曲想の変化に関心をもち、意欲的に聴いている。 ・楽曲構成の豊かさや表現の多様さと楽曲全体の味わいに関心をもっている。

主な評価資料	ワークシート、実技テスト、定期考査	ワークシート、実技テスト、定期考査	ワークシート、実技テスト、定期考査																		
評価の割合	30%	40%	30%																		
観点別の 評価基準	<table><tr><td colspan="2">観点別学習状況の評価</td><td>学習の実現状況</td></tr><tr><td>A</td><td>十分満足できると判断されるもの</td><td>70%以上</td></tr><tr><td>B</td><td>おおむね満足できると判断されるもの</td><td>50%以上 70%未満</td></tr><tr><td>C</td><td>努力を要すると判断されるもの</td><td>50%未満</td></tr></table>			観点別学習状況の評価		学習の実現状況	A	十分満足できると判断されるもの	70%以上	B	おおむね満足できると判断されるもの	50%以上 70%未満	C	努力を要すると判断されるもの	50%未満						
観点別学習状況の評価		学習の実現状況																			
A	十分満足できると判断されるもの	70%以上																			
B	おおむね満足できると判断されるもの	50%以上 70%未満																			
C	努力を要すると判断されるもの	50%未満																			
5段階 評定基準	<table><tr><td colspan="2">評 定</td><td>各評定の範囲</td></tr><tr><td>5</td><td>十分満足できるもののうち、特に程度が高いもの</td><td>80%以上</td></tr><tr><td>4</td><td>十分満足できると判断されるもの</td><td>70%以上 80%未満</td></tr><tr><td>3</td><td>概ね満足できると判断されるもの</td><td>50%以上 70%未満</td></tr><tr><td>2</td><td>努力を要すると判断されるもの</td><td>20%以上 50%未満</td></tr><tr><td>1</td><td>一層努力を要すると判断されるもの</td><td>20%未満</td></tr></table>			評 定		各評定の範囲	5	十分満足できるもののうち、特に程度が高いもの	80%以上	4	十分満足できると判断されるもの	70%以上 80%未満	3	概ね満足できると判断されるもの	50%以上 70%未満	2	努力を要すると判断されるもの	20%以上 50%未満	1	一層努力を要すると判断されるもの	20%未満
評 定		各評定の範囲																			
5	十分満足できるもののうち、特に程度が高いもの	80%以上																			
4	十分満足できると判断されるもの	70%以上 80%未満																			
3	概ね満足できると判断されるもの	50%以上 70%未満																			
2	努力を要すると判断されるもの	20%以上 50%未満																			
1	一層努力を要すると判断されるもの	20%未満																			

教科	美術	履修学年	1年	指導時間	45時間	担当者	廣瀬 直彦	区分	必修
----	----	------	----	------	------	-----	-------	----	----

教科の目標	○楽しく美術の活動に取り組み、美術を愛好する心情を培い、心豊かな生活を創造していく意欲と態度を育てる。 ○対象を見つめ感じ取る力や想像力を高め、豊かに発想し構想する能力や、色や色彩などによる表現の技法を身につけ、意図に応じて創意工夫し美しく表現する能力を育てる。 ○自然の造形や美術作品などについての基礎的な理解や見方を広げ、美術文化に対する関心を高め、よさや美しさなどを味わう鑑賞の能力を育てる。
-------	---

観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
内容のまとまりごとの評価規準	校内スケッチ	① 身の回りにあるいつも見慣れたものや、普段なにげなく見ているものに、形や色の面白さや特徴があることに気づき、注意深く見つめるようとする。 ② なにげなく見ていた対象に、あらためて新鮮な印象をもち、主体的に表現することで新たに発見する喜びを味わおうとする。	① 普段見慣れている身近なものから、形の特徴をよく観察してその美しさを感じとり、画面に効果的に取り入れることができる。 ② 対象の形の美しさからさまざまに構想し、豊かに画面を構成することができる。 ③ 対象から感じ取った明暗の美しい調子を、鉛筆の色味を生かしながら、自分らしい色調で表すことができる。	① 対象をよく観察し、形の特徴をとらえて、自分なりの方法でスケッチをすることができる。 ② 対象の細部にとらわれることなく、技法を工夫して、材質感や立体感を表すことができる。
	着彩 色彩構成	① 色を科学的に理解し、絵の具と光の三原色の違いや、色の三属性や対比、進出色、後退色、寒色、暖色など、色のさまざまな性質に興味を持つ。 ② 色の感情・対比を効果的に使った色彩構成の作品を意欲的に制作する。 ③ 偶然出来た形より、自分が美しいと感じる形を探し出す。	① 色の性質や混色・配色など、学んだことを意図に合う表現方法で制作する。 ② 自分が探し出した美しい形を生かす配色を考える。 ③ 色の性質を効果的に使った色彩構成を発想することができる。	① 構想を基に、意図した色の絵の具によって、各色面を塗ることができる。 ② 全体や部分の関係に気を配り、色の対比や組み合わせによる効果を最大限に生かした作品ができる。
	ステンドグラス	① 透明感に合ったデザインを選び、積極的に造形活動を行う。 ② 試行錯誤をし、自分なりのデザインや造形活動に積極的に試みる。	① 透明感を使った光表現を理解し、制作を行う。 ② スケッチしながらデザイン構成を形にする。	① 構想を基に、形や色彩を作品に生かして制作できる。 ② 光の特性を理解し、効果的に作品に生かして制作できる。
	銅版レリーフ	① 制作することに興味をもち、美しさを味わう。 ② 彫金の基礎を学び、楽しく創造活動に取り組む。	① 自然物の形や色彩などから、自由に発想する。 ② 制作を行いながら、金属の質感に触れ、素材の特質を体で感じる。	① 材料や用具の生かし方を考え、工夫してあらかず。 ② 形や道具を工夫して制作できたか。

主な評価資料	作品、制作過程の様子、定期考査	作品、制作過程の様子、定期考査	作品、制作過程の様子、授業に取り組む態度
評価の割合	30%	40%	30%

観点別の 評価基準	観点別学習状況の評価			学習の実現状況	
	A	十分満足できると判断されるもの		70%以上	
	B	おおむね満足できると判断されるもの		50%以上 70%未満	
	C	努力を要すると判断されるもの		50%未満	

5段階 評定基準	評 定			各評定の範囲	
	5	十分満足できるもののうち、特に程度が高いもの		80%以上	
	4	十分満足できると判断されるもの		70%以上 80%未満	
	3	概ね満足できると判断されるもの		50%以上 70%未満	
	2	努力を要すると判断されるもの		20%以上 50%未満	
	1	一層努力を要すると判断されるもの		20%未満	

教科	保健体育	履修学年	1年	指導時間	105時間	担当者	長 明日香、宋 強賢	区分	必修
----	------	------	----	------	-------	-----	------------	----	----

教科の目標	体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現する ための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
-------	--

観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
内容のまとめりごとの評価規準	体づくり運動	○知識 ・体づくり運動の意義と行い方、体の動きを高める方法などについて理解している。	・自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている	・体づくり運動に積極的に取り組むとともに、仲間の学習を援助しようとする事、一人一人の違いに応じた動きなどを認めようとする事、話し合いに参加しようとする事などをしたり、健康・安全に気を配ったりしている。
	器械運動 マット	○知識 ・器械運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などについて理解している。 ○技能 ・マット運動では、回転系や巧技系の基本的な技を滑らかに行うこと、条件を変えた技や発展技を行うこと及びそれらを組み合わせることができる。	・技などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えている。	・器械運動に積極的に取り組むとともに、よい演技を認めようとする事、仲間の学習を援助しようとする事、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとする事などをしたり、健康・安全に気を配ったりしている。
	陸上競技 走り幅跳び ハードル 持久走	○知識 ・陸上競技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などについて理解している。 ・長距離走では、ペースを守って走ることができる。 ・ハードル走では、リズムカルな走りから滑らかにハードルを越すことができる。 ・走り幅跳びでは、スピードに乗った助走から素早く踏み切って跳ぶことができる。	・動きなどの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えている。	・陸上競技に積極的に取り組むとともに、勝敗などを認め、ルールやマナーを守ろうとする事、分担当した役割を果たそうとする事、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとする事などをしたり、健康・安全に気を配ったりしている。
	ダンス	○知識 ・ダンスの特性や由来、表現の仕方、その運動に関連して高まる体力などについて理解している。 ○技能 ・現代的なリズムのダンスでは、リズムの特徴を捉え、変化のある動きを組み合わせ、リズムに乗って全身で踊ることができる。	・表現などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	・ダンスに積極的に取り組むとともに、仲間の学習を援助しようとする事、交流などの話し合いに参加しようとする事、一人一人の違いに応じた表現や役割を認めようとする事などをしたり、健康・安全に気を配ったりしている。
	水泳	○知識 ・水泳の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などについて理解している。 ○技能 ・クロールでは、手と足の動き、呼吸のバランスをとり速く泳ぐことができる。 ・平泳ぎでは、手と足の動き、呼吸のバランスをとり長く泳ぐことができる。	・泳法などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えている。	・水泳に積極的に取り組むとともに、勝敗などを認め、ルールやマナーを守ろうとする事、分担当した役割を果たそうとする事、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとする事などをしたり、水泳の事故防止に関する心得を遵守するなど健康・安全に気を配ったりしている。
	球技	○知識 ・球技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などについて理解している。 ○技能 ・ゴール型では、ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前での攻防をすることができる。 ・ネット型では、ボールや用具の操作と定位置に戻るなどの動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができる。 ・ベースボール型では、基本的なバット操作と走塁での攻撃、ボール操作と定位置での守備などによって攻防をすることができる。	・攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	・球技に積極的に取り組むとともに、フェアなプレイを守ろうとする事、作戦などについての話し合いに参加しようとする事、一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとする事、仲間の学習を援助しようとする事などをしたり、健康・安全に気を配ったりしている。
	体育に関する知識	○知識 ・運動やスポーツが多様であることについて理解している。	・運動やスポーツが多様であることについて、自己の課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えている。	・運動やスポーツが多様であることについての学習に積極的に取り組もうとしている。
	保健	・身体には、多くの器官が発育し、それに伴い、様々な機能が発達する時期があること。また、発育・発達の時期やその程度には、個人差があることを理解している。対応した適切な行動が必要となることを理解している。 ・思春期には、内分泌の働きによって生殖に関わる機能が成熟すること。また、成熟に伴う変化に対応した適切な行動が必ず必要になることを理解している。 ・知的機能、情意機能、社会性などの精神機能は、生活経験などの影響を受けて発達すること。また、思春期においては、自己の認識が深まり、自己形成がなされることを理解している。 ・精神と身体は、相互に影響を与え、関わっていること。欲求やストレスは、心身に影響を与えることがあること。また、心の健康を保つには、欲求やストレスに適切に対処する必要があることを理解しているとともに、それらに対処する技能を身に付けている。	・心身の機能の発達と心の健康について、課題を発見し、その解決に向けて思考し判断しているとともに、それらを表現している。	・心身の機能の発達と心の健康についての学習に自主的に取り組もうとしている。

主な評価資料	動きの観察と実技テスト 審判などによる理解度の把握およびワークシート・定期考査	グループ活動の観察およびワークシート	相互評価などの活動の観察およびワークシート・授業への出席および参加状況
評価の割合	30%	40%	30%

観点別の 評価基準	観点別学習状況の評価		学習の実現状況
	A	十分満足できると判断されるもの	70%以上
	B	おおむね満足できると判断されるもの	50%以上 70%未満
	C	努力を要すると判断されるもの	50%未満

5段階 評定基準	評 定		各評定の範囲
	5	十分満足できるもののうち、特に程度が高いもの	80%以上
	4	十分満足できると判断されるもの	70%以上 80%未満
	3	概ね満足できると判断されるもの	50%以上 70%未満
	2	努力を要すると判断されるもの	20%以上 50%未満
	1	一層努力を要すると判断されるもの	20%未満

令和6年度 評価規準

東京都立富士高等学校附属中学校

教科	技術・家庭 技術分野	履修学年	1年	指導時間	35時間	担当者	上野 学	区分	必修
----	---------------	------	----	------	------	-----	------	----	----

教科の目標	技術の見方・考え方を働かせ、ものづくりなどの技術に関する実践的・体験的な活動を通して、技術によってよりよい生活や持続可能な社会を構築する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
-------	--

観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
内容のまとまりごとの評価規準	生活や社会を支える材料と加工の技術	材料や加工の特性等の原理・法則と，材料の製造・加工方法等の基礎的な技術の仕組みについて理解している。	材料と加工の技術に込められた問題解決の工夫について考えている。	主体的に材料と加工の技術について考え，理解しようとしている。
	材料と加工の技術による問題の解決	製作に必要な図をかき，安全・適切な製作や検査・点検等ができる技能を身に付けている。	問題を見いだして課題を設定し，材料の選択や成形の方法等を構想して設計を具体化するとともに，製作の過程や結果の評価，改善及び修正について考えている。	よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて，課題の解決に主体的に取り組んだり，振り返って改善したりしようとしている。
	社会の発展と材料と加工の技術	生活や社会，環境との関わりを踏まえて，材料と加工の技術の概念を理解している。	材料と加工の技術を評価し，適切な選択と管理・運用の在り方や，新たな発想に基づく改良と応用について考えている。	よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて，材料と加工の技術を工夫し創造しようとしている。

主な評価資料	提出物、学習に取り組む様子、定期考査、実技考査点、作品	提出物、学習に取り組む様子、定期考査、作品	提出物、出席点、学習に取り組む様子、定期考査																		
評価の割合	30%	40%	30%																		
観点別の評価基準	<table><tr><th colspan="2">観点別学習状況の評価</th><th>学習の実現状況</th></tr><tr><td>A</td><td>十分満足できると判断されるもの</td><td>70%以上</td></tr><tr><td>B</td><td>おおむね満足できると判断されるもの</td><td>50%以上 70%未満</td></tr><tr><td>C</td><td>努力を要すると判断されるもの</td><td>50%未満</td></tr></table>			観点別学習状況の評価		学習の実現状況	A	十分満足できると判断されるもの	70%以上	B	おおむね満足できると判断されるもの	50%以上 70%未満	C	努力を要すると判断されるもの	50%未満						
観点別学習状況の評価		学習の実現状況																			
A	十分満足できると判断されるもの	70%以上																			
B	おおむね満足できると判断されるもの	50%以上 70%未満																			
C	努力を要すると判断されるもの	50%未満																			
5段階 評定基準	<table><tr><th colspan="2">評 定</th><th>各評定の範囲</th></tr><tr><td>5</td><td>十分満足できるもののうち、特に程度が高いもの</td><td>80%以上</td></tr><tr><td>4</td><td>十分満足できると判断されるもの</td><td>70%以上 80%未満</td></tr><tr><td>3</td><td>概ね満足できると判断されるもの</td><td>50%以上 70%未満</td></tr><tr><td>2</td><td>努力を要すると判断されるもの</td><td>20%以上 50%未満</td></tr><tr><td>1</td><td>一層努力を要すると判断されるもの</td><td>20%未満</td></tr></table>			評 定		各評定の範囲	5	十分満足できるもののうち、特に程度が高いもの	80%以上	4	十分満足できると判断されるもの	70%以上 80%未満	3	概ね満足できると判断されるもの	50%以上 70%未満	2	努力を要すると判断されるもの	20%以上 50%未満	1	一層努力を要すると判断されるもの	20%未満
評 定		各評定の範囲																			
5	十分満足できるもののうち、特に程度が高いもの	80%以上																			
4	十分満足できると判断されるもの	70%以上 80%未満																			
3	概ね満足できると判断されるもの	50%以上 70%未満																			
2	努力を要すると判断されるもの	20%以上 50%未満																			
1	一層努力を要すると判断されるもの	20%未満																			

教科	技術・家庭 家庭分野	履修学年	1年	指導時間	35時間	担当者	田川 奈穂子	区分	必修
----	---------------	------	----	------	------	-----	--------	----	----

教科の目標	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
-------	---

観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
内容の まとめ りごとの 評価規 準	自分の成長と家族・家庭生活	自分の成長と家族や家庭生活との関わりが分かり、家族・家庭の基本的な機能について理解しているとともに、家族や地域の人々と協力・協働して家庭生活を営む必要があることに気付いている。		
	食事の役割と中学生の栄養の特徴	・生活の中で食事が果たす役について理解している。 ・中学生に必要な栄養の特徴が分かり、健康によい食習慣について理解している。	自分の食習慣について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	よりよい生活の実現に向けて、食事の役割と中学生の栄養の特徴について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。
	中学生に必要な栄養を満たす食事	・栄養素の種類と働きが分かり、食品の栄養的な特質について理解している。 ・中学生の1日に必要な食品の種類と概量が分かり、1日分の献立作成の方法について理解している。	中学生の1日分の献立について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	よりよい生活の実現に向けて、中学生に必要な栄養を満たす食事について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。
	日常食の調理と地域の食文化	・日常生活と関連付け、用途に応じた食品の選択について理解しているとともに、適切にできる。 ・食品や調理用具等の安全と衛生に留意した管理について理解しているとともに、適切にできる。 ・材料に適した加熱調理の仕方について理解しているとともに、基礎的な日常食の調理が適切にできる。 ・地域の食文化について理解しているとともに、地域の食材を用いた和食の調理が適切にできる。	日常の1食分の調理における食品の選択や調理の仕方、調理計画について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、日常食の調理と地域の食文化について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。

主な評価資料	ワークシート、課題レポート、定期考査、実習	ワークシート、課題レポート、定期考査	学習に取り組む様子																		
評価の割合	30%	40%	30%																		
観点別の 評価基準	<table><tr><td colspan="2">観点別学習状況の評価</td><td>学習の実現状況</td></tr><tr><td>A</td><td>十分満足できると判断されるもの</td><td>70%以上</td></tr><tr><td>B</td><td>おおむね満足できると判断されるもの</td><td>50%以上 70%未満</td></tr><tr><td>C</td><td>努力を要すると判断されるもの</td><td>50%未満</td></tr></table>			観点別学習状況の評価		学習の実現状況	A	十分満足できると判断されるもの	70%以上	B	おおむね満足できると判断されるもの	50%以上 70%未満	C	努力を要すると判断されるもの	50%未満						
観点別学習状況の評価		学習の実現状況																			
A	十分満足できると判断されるもの	70%以上																			
B	おおむね満足できると判断されるもの	50%以上 70%未満																			
C	努力を要すると判断されるもの	50%未満																			
5段階 評定基準	<table><tr><td colspan="2">評 定</td><td>各評定の範囲</td></tr><tr><td>5</td><td>十分満足できるもののうち、特に程度が高いもの</td><td>80%以上</td></tr><tr><td>4</td><td>十分満足できると判断されるもの</td><td>70%以上 80%未満</td></tr><tr><td>3</td><td>概ね満足できると判断されるもの</td><td>50%以上 70%未満</td></tr><tr><td>2</td><td>努力を要すると判断されるもの</td><td>20%以上 50%未満</td></tr><tr><td>1</td><td>一層努力を要すると判断されるもの</td><td>20%未満</td></tr></table>			評 定		各評定の範囲	5	十分満足できるもののうち、特に程度が高いもの	80%以上	4	十分満足できると判断されるもの	70%以上 80%未満	3	概ね満足できると判断されるもの	50%以上 70%未満	2	努力を要すると判断されるもの	20%以上 50%未満	1	一層努力を要すると判断されるもの	20%未満
評 定		各評定の範囲																			
5	十分満足できるもののうち、特に程度が高いもの	80%以上																			
4	十分満足できると判断されるもの	70%以上 80%未満																			
3	概ね満足できると判断されるもの	50%以上 70%未満																			
2	努力を要すると判断されるもの	20%以上 50%未満																			
1	一層努力を要すると判断されるもの	20%未満																			

教科	英語	履修学年	1年	指導時間	158時間	担当者	松尾 陽介、岸 英佑 残間 紀美子、千葉 祐二 上田 みつ子	区分	必修
----	----	------	----	------	-------	-----	--------------------------------------	----	----

教科の目標	外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、日常的・社会的な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成する。
-------	--

観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
内容のまとまりごとの評価規準	聞くこと	[知識] 英語の特徴やさまりに関する事項を理解している。 [技能] 実際のコミュニケーションにおいて、日常的な話題や社会的な話題について、はっきりと話された文章等を聞いて、その内容を捉える技能を身につけている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題についてはっきりと話される文章を聞いて、必要な情報や概要、要点を捉えている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、話し手に配慮しながら、主体的に英語で話されることを聞こうとしている。
	読むこと	[知識] 英語の特徴やさまりに関する事項を理解している。 [技能] 実際のコミュニケーションにおいて、日常的な話題や社会的な話題について書かれた短い文章等を読んで、その内容を捉える技能を身につけている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について書かれた短い文章を読んで、必要な情報や概要、要点を捉えている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、書き手に配慮しながら、主体的に英語で書かれたことを読もうとしている。
	話すこと [やり取り]	[知識] 英語の特徴やさまりに関する事項を理解している。 [技能] 実際のコミュニケーションにおいて、日常的な話題や社会的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて伝え合う技能を身につけている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて、伝え合っている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、話し手に配慮しながら、主体的に英語を用いて伝え合おうとしている。
	話すこと[発表]	[知識] 英語の特徴やさまりに関する事項を理解している。 [技能] 実際のコミュニケーションにおいて、日常的な話題や社会的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて話す技能を身につけている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて、伝え合っている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、話し手に配慮しながら、主体的に英語を用いて話そうとしている。
	書くこと	[知識] 英語の特徴やさまりに関する事項を理解している。 [技能] 実際のコミュニケーションにおいて、日常的な話題や社会的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて、またはそれらを正確に用いて書く技能を身につけている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて、伝え合っている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、話し手に配慮しながら、主体的に英語を用いて書こうとしている。

主な評価資料	小テスト、定期考査	パフォーマンステスト、小テスト 定期考査	ワークシート、パフォーマンステスト
--------	-----------	-------------------------	-------------------

評価の割合	30%	40%	30%
-------	-----	-----	-----

観点別の 評価基準	観点別学習状況の評価			学習の実現状況
	A	十分満足できると判断されるもの		70%以上
	B	おおむね満足できると判断されるもの		50%以上 70%未満
	C	努力を要すると判断されるもの		50%未満

5段階 評定基準	評 定		各評定の範囲
	5	十分満足できるもののうち、特に程度が高いもの	80%以上
	4	十分満足できると判断されるもの	70%以上 80%未満
	3	概ね満足できると判断されるもの	50%以上 70%未満
	2	努力を要すると判断されるもの	20%以上 50%未満
	1	一層努力を要すると判断されるもの	20%未満